

山室木材工業株式会社 [木材・木製品製造業]

創業以来大切な木材に感謝し、21世紀の木材産業はいかにあるべきかの原点に還り、資源循環型社会を目指しています。長年の木材加工技術から生み出した「一片の木材も無駄にしないリサイクルシステム」の更なる研鑽に取り組むとともに、育林事業を推進し、環境にやさしい企業を目指しています。

環境事業推進室

【施設DATA】

所在地：滋賀県米原市大野木 1751-5

事業概要：パレット、木箱などの製造・販売、木質チップ製造、軽量鋼矢板の製造、
木質廃棄物処理業

電話番号：0749-57-0101

URL：<http://www.yama-muro.co.jp/>

■ “木” にこだわり続けて40年、全国的な評価を得ました

当社は1969（昭44）年4月に創業し、木材パレットの製造・販売を開始しました。それ以来、“木”にこだわり続け、自社開発リサイクルプラントによる高品質のチップ製造、パレット乾燥工程への高温木材乾燥技術の導入、最近では乾燥用バイオマスボイラーの設置など常に新しい技術を取り入れて事業を進めています。長年のリサイクル活動が評価され、本年6月には全国産業廃棄物連合会より「優良事業所」として表彰を受けました。



○パレット事業

各種パレット、木箱についてお客様の“省力化とスピード化をお手伝いする”ために、オーダーメイドで、1枚の製造から大型生産ラインによる大量生産に対応いたします。破損したパレットの補修や補修板の販売もしています。また、(財)全国植物検疫協会認定処理施設として、輸出向け木製パレット、木箱の公的な熱処理も行なっています。

○チップ事業

様々な形の木質廃棄物を受け入れ、自社開発の大型リサイクルラインで高品質の木製チップを生産し、製紙工場や建材メーカーなどに高い評価を受けています（次項で詳細説明）。年間約20,000トを受け入れています。

○このほかの事業

輸出の際に熱処理を必要としないスチールパレットの製造・販売、多様なニーズに対応する為、樹脂性パレットの販売、軽量鋼矢板の製造も行っています。

2000年3月に、本業そのものをISO14001EMS導入で経営化し、認証を取得しました。

①木質廃棄物のリサイクル・リユースの向上を目指した技術開発、②全ての部門でのムダの排除、業務の効率化、使用エネルギーの効率化、資源の有効利用、③個人目標の設定と環境教育による環境保全意識の向上、④緑化を敷地内から社有土地へ拡大、などに取り組んでいます。

■ 自社開発の大型リサイクルラインで一片の木も無駄にしません

当社では次のようなプロセスで木質廃棄物をチップ化し、チップ利用先へ出荷します。

- ①受付：木製パレット・木箱、建築解体材、ベニヤ板くず、伐採生木・杉皮・竹、枕木等の廃材を受け入れます。釘はついたままでも当社で工程選別します。釘以外のもの（付着したボード類、プラスチック、紙など）は取り除いてください。

搬入前に分別をしていただいたもの、枝葉を取り除いた伐採材などの良質な木くずは処理料金が安く抑えられます。

また、当社は「滋賀県産業廃棄物税条例にかかる再生施設」の認定を受けていますので、排出者（納税義務者）からの課税免除申請により産業廃棄物税が免除されます。

- ②搬入：弊社チップ事業部までお持ちください。当社に収集運搬を依頼される場合は別途運賃が必要となります。

- ③仕分け：チップの用途（製紙用、ボード用、燃料用など）ごとに仕分けします。

○純木質廃棄物：廃パレット、柱、垂木、生木。

○木質廃棄物：ベニヤ付廃パレット、ベニヤ・コンパネ類、フローリングの床材、ペンキ・ニス等でコーティングされた木くず、型枠、おが粉、プレーナーかす、竹、枝。

- ④ライン投入：木くずに混じったプラスチックや紙等の不純物を取り除きます。

- ⑤破碎、サイズ選別：木くずを破碎し、チップ化し、サイズ選別をします。

- ⑥商品：チップは次のとおりです

○製紙用チップ ⇒ 紙製品の原料、パルプに加工。

○ボード用チップ ⇒ 建材用のボードの原料。

○燃料チップ ⇒ 石油代替燃料として利用。

○その他用途：遊歩道の舗装材、緑化地保護のための地面敷き詰めなど。



木くずリサイクル施設



廃パレット



解体材



製紙用チップ



燃料チップ

■ 木材を使うことは環境を守ること

森林は生育に伴ってCO₂吸収量が増加しますが老木になるに従って吸収量は減少します（例えば、針葉樹（ラジアタ松植林の場合）では樹齢5年から15年が吸収量のピークで、20年を過ぎるとほとんど吸収しなくなる）。CO₂吸収力が衰えた老木を伐採してそこに植林して元気な森をつくる必要があります。森林経営のもとに計画的に木を伐ることは環境にやさしいことなのです。木は、使用中はCO₂を貯蔵し、使用後はバイオマス燃料として燃やして

も成長過程で吸収したCO₂を放出するだけでカーボンニュートラルを維持します。使えば使うほど大気中のCO₂を増加させる化石燃料と大きく違うところです。

当社では木製パレットの乾燥などにこれまでは灯油ボイラーを使用していました。2007年にNEDO（独立行政法人新エネルギー・産業総合開発機構）による「地域バイオマス熱利用フィールドテスト事業」の採択を受け、2008年に「バイオマスボイラー木材乾燥システム」を完成させました。これまで年間38万Lの灯油を使用していましたが、燃料チップを使うバイオマスボイラーの導入により灯油使用量を80%以上削減し、年間約600tのCO₂削減をしました。得られた実績データ、システムの信頼性向上に資する課題や経済分析結果などを公表

することで、今後のバイオマス熱利用の導入拡大を促進させていくこととしています。



「木製品の設計・製造に始まり、その生涯を終えた木製品を花道へと導く木材コーディネーター」として“木”にこだわり続け、木製パレット製造のリーディングカンパニーを目指します。